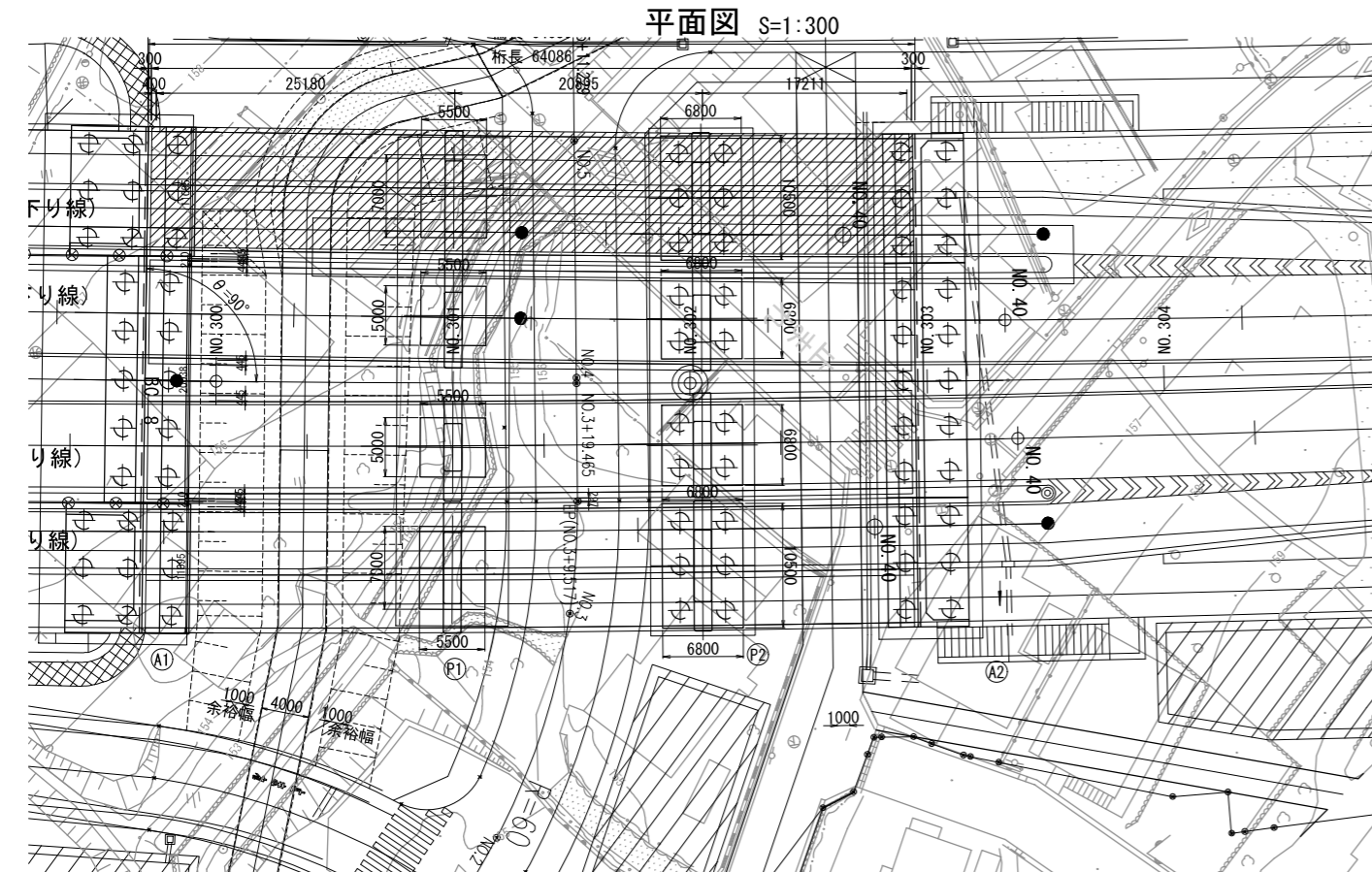
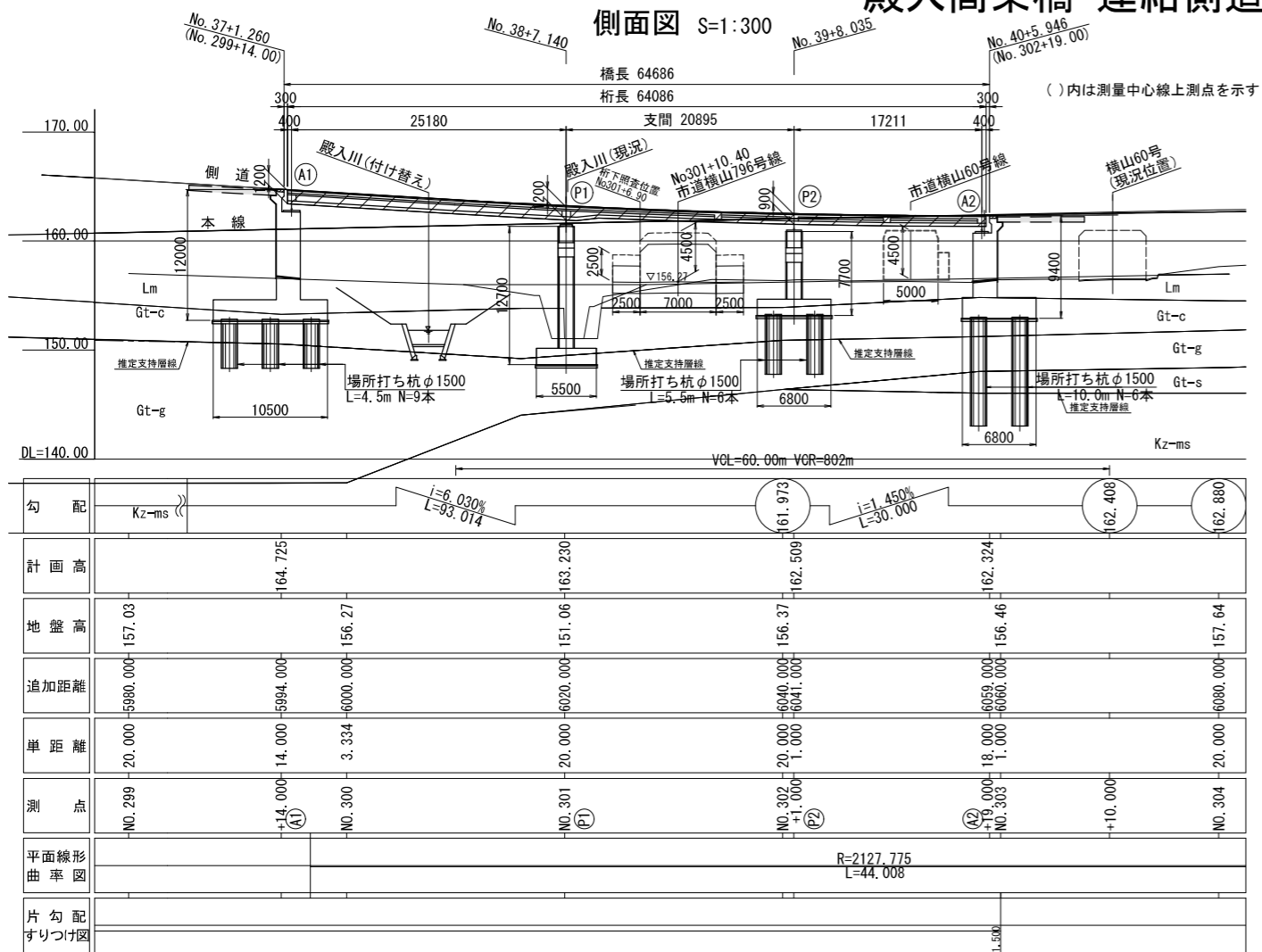
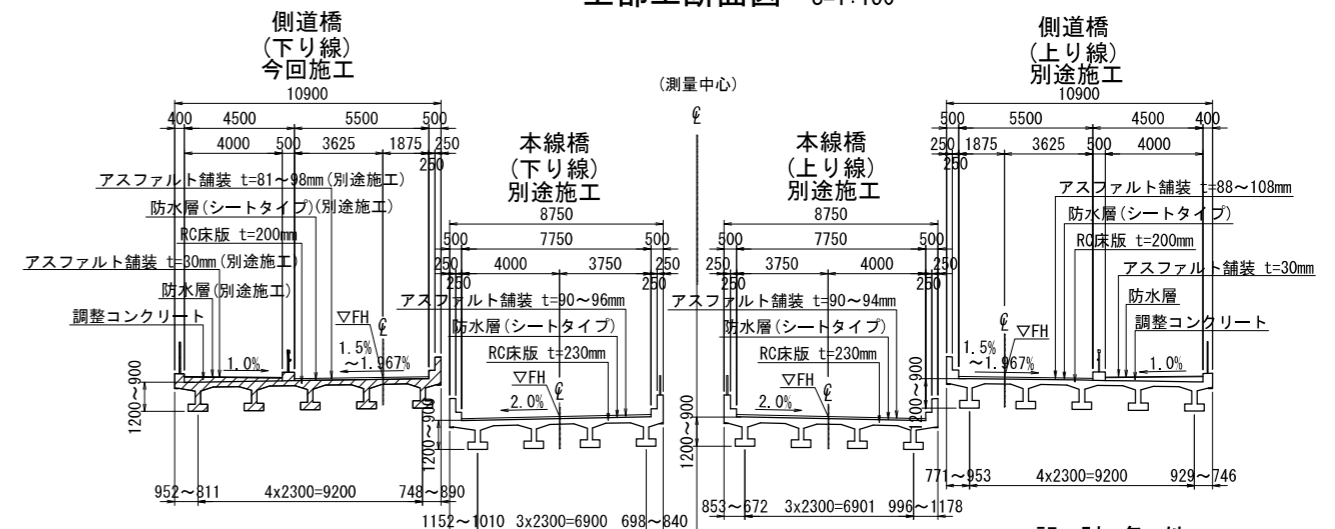


殿入高架橋 連結側道(下り線) 全体一般図(1)



上部工断面図 S=1:150



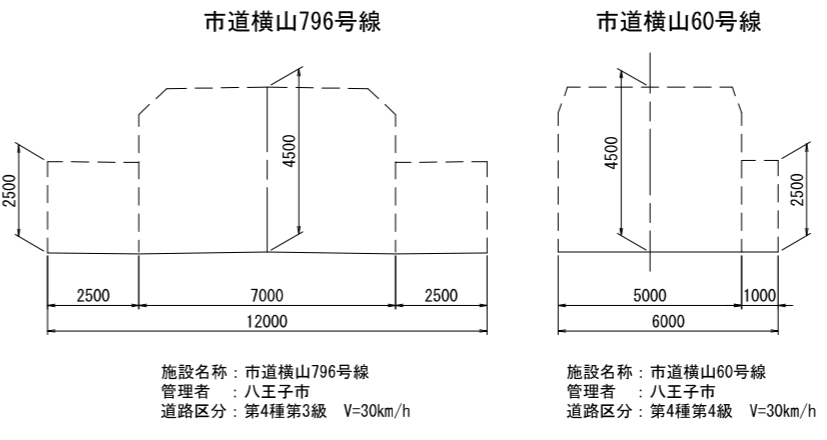
設計条件

路線名	八王子南バイパス 国道20号線
道路規格	第4種第1級 V=40km/h
橋長	64.686m (道路中心線上)
平面線形	R=∞~R=2127.775 (道路中心線上)
縦断線形	6.030% ~ 1.450%
横断勾配	車道: 1.5% ~ 1.967% 歩道: 1.0%
斜角	θ = 90° 00' 00"
総幅員	10.900m (有効幅員 車道: 5.500m, 歩道: 4.500m)
舗装	アスファルト舗装: t=86~104mm (車道), t=30mm (歩道)
橋の重要度の区分	B種の橋
設計供用期間	100年
設計活荷重	B活荷重
地域別補正係数	A2地域: C _z =1.0, C _I z=1.0, C _{II} z=1.0
地盤種別	I種地盤、II種地盤
設計震度	(レベル I) kh=0.20 (躯体), kh=0.16 (土) I種地盤 (レベル I) kh=0.25 (躯体), kh=0.20 (土) II種地盤
架橋環境条件	飛来塩分: 無、凍結抑制剤散布: 無
塩害対策区分	対策区分無し
部材の設計	更新を前提としない部材: 主桁、床版、橋台、橋脚、基礎(100年)
耐久期間	更新を前提とする部材: 舗装、伸縮装置、検査路、排水装置等(適宜)
橋梁形式	3径間連続プレキャストコンクリート橋
支間	25.180m+20.895m+17.211m (道路中心線上)
使用材料	コンクリート σ _{ck} =45N/mm ² (下フランジ), σ _{ck} =30N/mm ² (床版・横桁・ウエブ) 鋼材 SM490Y σ _{ck} =24N/mm ² (地覆)
支承形式	免震支承 (橋軸直角方向固定)
架設方法	トラッククレーン架設工法
構造形式	逆T式橋台、張出し橋脚
基礎形式	場所打ち杭φ1500 (A1, P2, A2)、直接基礎 (P1)
支持地盤	御殿峠礫層 (Gt-g)、上総層群 (Kz-ms)
使用材料	コンクリート σ _{ck} =24N/mm ² 鉄筋 SD345
想定点検方法	検査路、梯子、橋梁点検車、リフト車
検査路	下部工検査路
補修時特記事項	想定している主たる塑性部: 支承部(橋軸方向)、橋脚基部(橋軸直角方向) 被害想定箇所: 支承部(橋軸方向)、橋脚基部(橋軸直角方向)
適用基準等	道路標示方書・同解説 1~V (平成29年11月) 日本道路協会 道路橋支保便覧 (平成30年12月) 日本道路協会

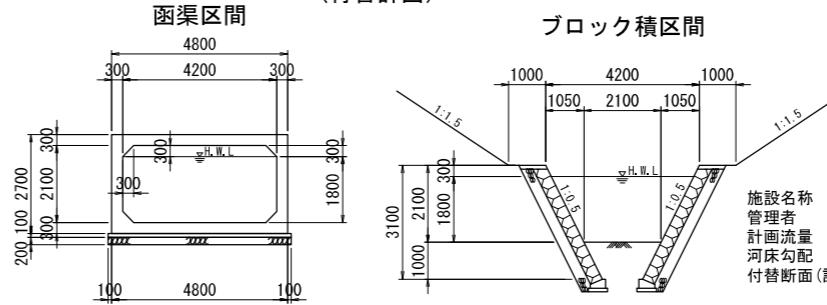
層序表

地質年代	地層名	地層記号	
第四紀更新世	ローム層	Lm	
	御殿峠礫層	礫混じり粘土	Gt-c
		玉石混じりシルト質砂礫	Gt-g
		細砂	Gt-s
	上総層群	風化砂岩	Kz-ms

交差物件 S=1:100



殿入川 S=1:100 (付替計画)



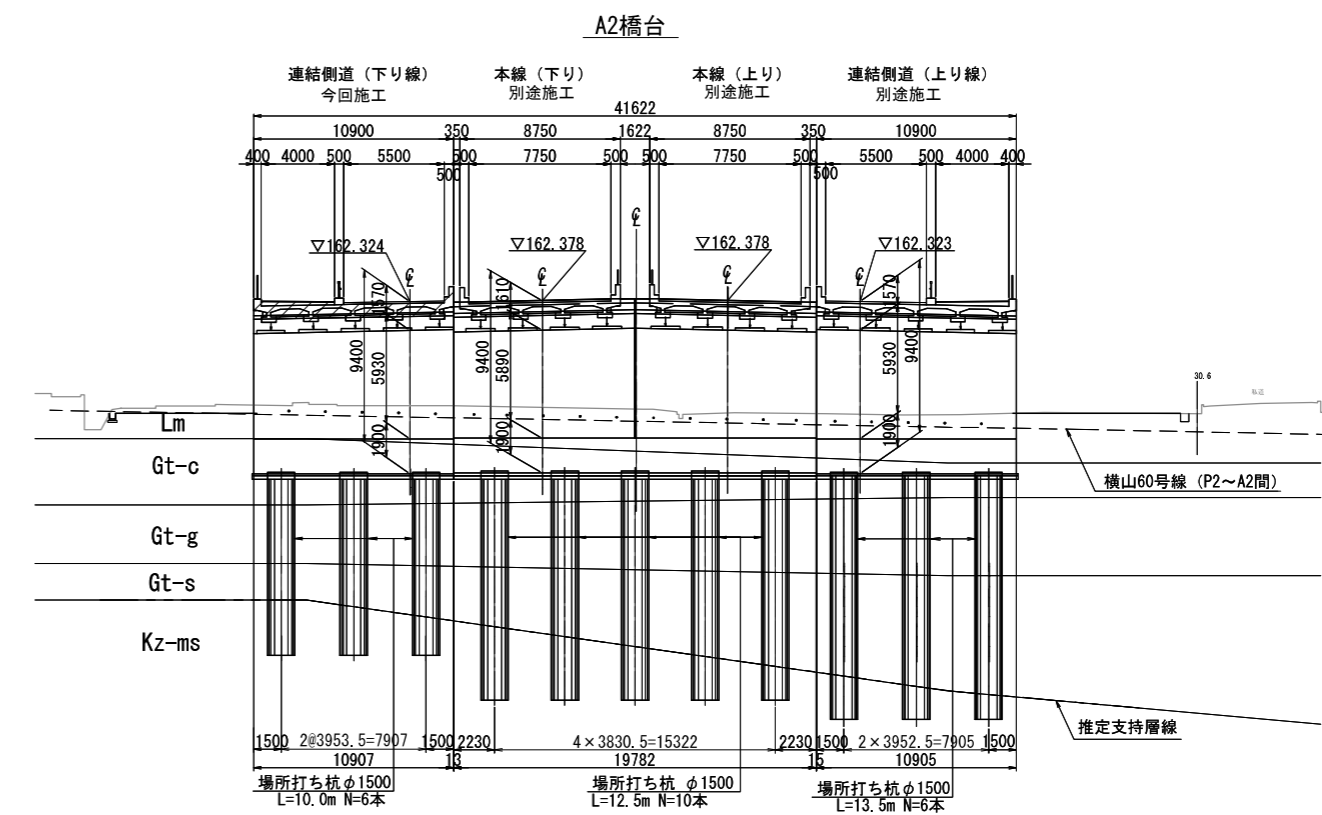
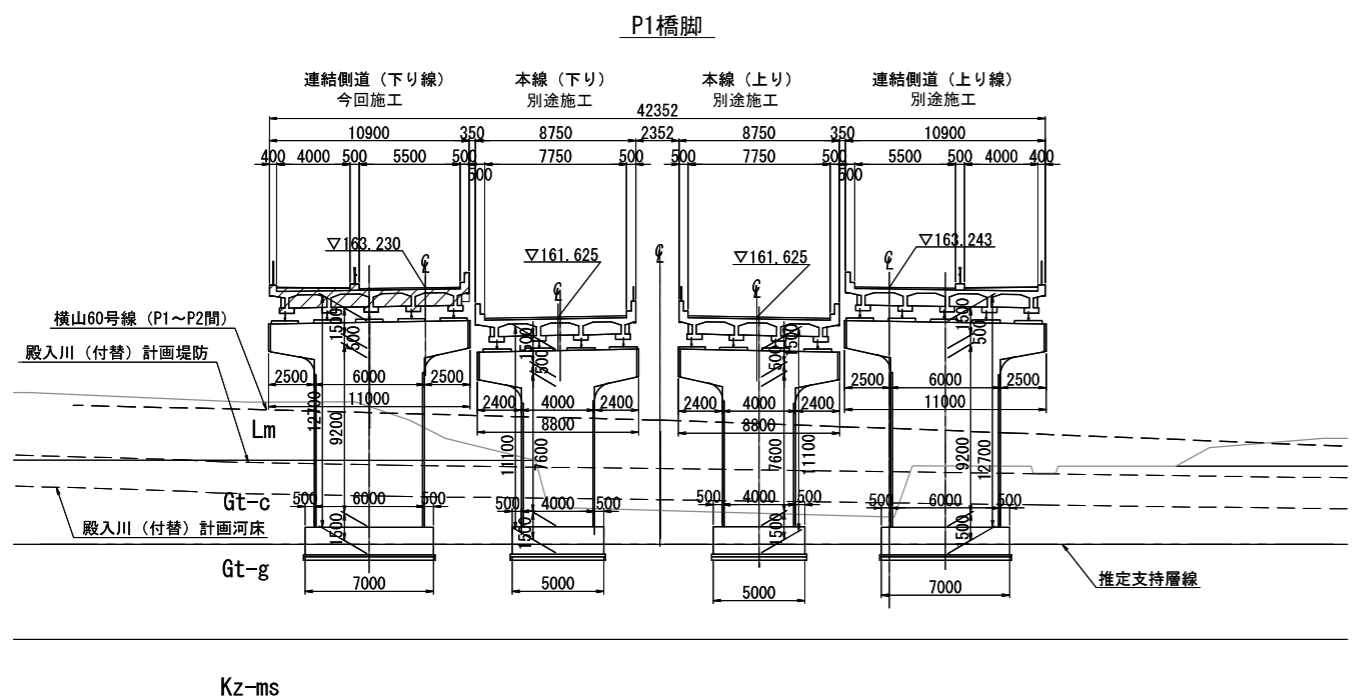
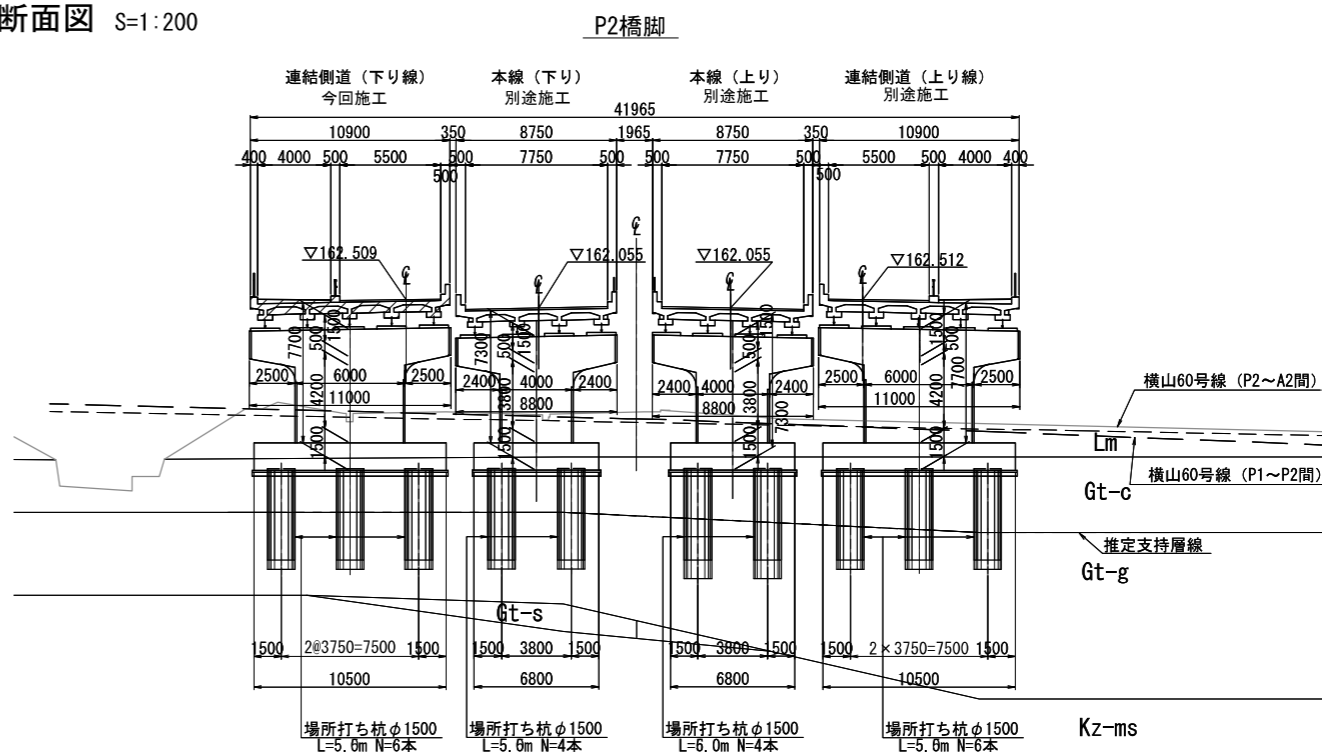
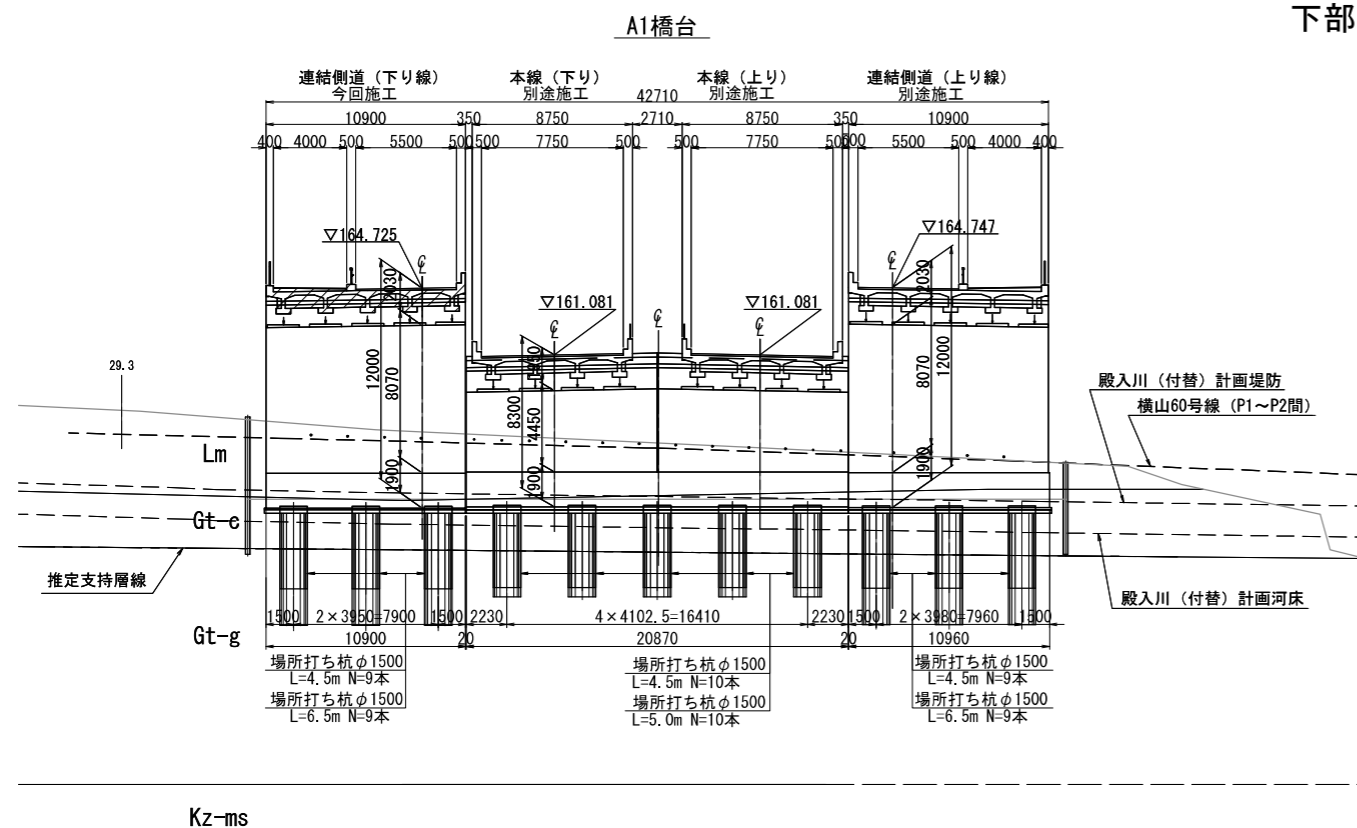
工事名	R3国道20号八王子南IC殿入高架橋上部その1工事
図面名	連結側道(下り線)全体一般図(1)
縮尺	図示 図面番号 67の2
年月日	令和3年7月 日
設計会社名	大日本コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 相武国道事務所

本図面は縮小図のため、縮尺は表示と異なります。

今回施工

殿入高架橋 連結側道(下り線) 全体一般図(2)

下部工断面図 S=1:200



今回施工

本図面は縮小図のため、縮尺は表示と異なります。

工事名	R3国道20号八王子南IC殿入高架橋上部その1工事		
図面名	殿入高架橋 連結側道(下り線) 全体一般図(2)		
縮尺	1:200	図面番号	67の3
年月日	令和3年7月 日		
設計会社名	大日本コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 相武国道事務所		